

C L T活用促進に関する関係省庁連絡会議（第 16 回）
議事要旨

日 時：令和 7 年 9 月 30 日（金）10:30～11:00

場 所：官邸 4 階大会議室

出席者：青木 一彦 内閣官房副長官
森 昌文 内閣総理大臣補佐官
今村 敬 内閣官房内閣審議官
森下 元雄 警察庁長官官房会計課長
中村 英正 こども家庭庁成育局長
橋本憲次郎 総務省自治財政局官房審議官（財政制度・財務担当）
石綱 恒 法務省大臣官房施設課技術企画室長
蝦名 喜之 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部長
小林万里子 文部科学省高等教育局私学部長
榊原 毅 厚生労働省大臣官房審議官（医政、口腔健康管理、精神保健医療、訪問看護、災害対策担当）
林 俊宏 厚生労働省大臣官房審議官（老健、障害保健福祉担当）
小坂善太郎 林野庁長官
菅野 将史 経済産業省商務サービスグループ 2025 年国際博覧会国際室長
小林 大和 資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部長
佐藤 由美 国土交通省大臣官房官庁営繕部長
宿本 尚吾 国土交通省住宅局長
西村 治彦 環境省大臣官房大臣官房審議官
隈 研吾 C L T 特別アドバイザー
西海 重和 内閣官房国際博覧会推進本部事務局次長

1 説明内容

- ・ C L T の活用状況について、今村内閣審議官から資料 1 及び資料 2 に沿って説明があった。
 - ・ 現行ロードマップのフォローアップについて、今村内閣審議官から資料 3－1 及び資料 3－2 の内閣官房の取り組み状況について説明があり、各省の取り組み状況について小坂林野庁長官、宿本国土交通省住宅局長及び西村環境省大臣官房審議官から資料 3－2 に沿って説明があった。
 - ・ 第 4 次ロードマップの策定（案）について、今村内閣審議官から資料 4 に沿って説明があり、案のとおり承認された。
 - ・ 隈 C L T 特別アドバイザーから資料 5 に沿って説明があり、以下の質疑があった。
 - 設計の最前線に立つ立場において、海外と比べたときに、日本における C L T の普及状況をどのように考えているのか。また、日本は国土の 3 分の 2 が森林であるが、日本の特徴や課題はどこにあると感じるか。
- 隈 C L T 特別アドバイザーから、以下の発言があった。
- ヨーロッパと比較すると、日本の C L T は、値段と知名度がネックになっている。日本人の特徴として、ある程度知名度が上がると需要が急増する。その時点をどう迎えるかである。残念なことに、日本の建築単価が世界の中で非常に高くなっている。これは日本の C L T にとってマイナスの状況であり、建築単価が安定してくると、価値のあるプロジェクトには C L T を使ってみようとい

うことになるであろう。

- 日本は3分の2が森として残っており、日本人は木の質感が大好きな国民性である。さらに日本の木の文化を高めていくために、CLTを時代の武器にするのは日本に必要な方向性だと思う。様々な取り組みをされているが、さらにリサイクルや横断的な使用、防災方面への使用等に拡大することで、今、日本が置かれている向かい風の状況を乗り越えていけるかと考える。

2 出席者からの主な意見等

青木内閣官房副長官（議長）から以下の発言があった。

- ・ 本日の会議では、CLTを活用した建築物が今年度中に累計 1,700 件を超える見込みであるとの報告があり、CLTの普及が着実に進んでいることを確認した。
- ・ 最近では、都心の大規模建築物のほか、地方での民間の中層建築物などへの活用が進んできている。また、大阪・関西万博の大屋根リングや日本館でCLTが活用されたことにより、CLTのさらなる認知度向上が図られてきている。
- ・ 令和8年度概算要求においても各種取り組みが盛り込まれているところ、各省庁におかれては、中層建築物等をはじめとして、更なるCLT活用に向けて、引き続き、関連施策の積極的な推進をお願いしたい。
- ・ また、先ほど議論のあった第4次ロードマップについては、隈研吾CLT特別アドバイザーからの助言も踏まえながら、幹事会の場でしっかり議論して、充実したものとしていただきたい。
- ・ CLTの活用促進は、新たな木材需要を生み出し、適切な森林管理を通じた国土強靱化や、地方創生にも寄与するほか、脱炭素社会の実現に向けた施策の推進につながる。
- ・ 各省庁におかれては、引き続き、CLTの活用促進に取り組んでいただきたい。

以上